

高齢者を対象としたコミュニティ施設の開設により商店街の認知度が向上

## 田辺市アオイ通り協同組合

機関名	田辺市アオイ通り協同組合		
所在地	和歌山県田辺市下屋敷町1番地		
電話番号	0739-25-2552		
地域概要	(1)管内人口 71千人	(2)管内商店街数 10商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1商店街	(2)会員数 24商店	
	(3)空店舗率 0%	(4)大型店空き店舗数 0店	
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. <u>地域型商店街</u> 4. 近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成15年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業（高齢者等交流施設）

・高齢者を対象としたコミュニティ施設の開設

総事業費

3,900千円

### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

田辺市は、和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置する、気候温暖で豊かな自然に恵まれた農業・水産業・商業のまちである。平安時代からは熊野古道の要衝として、江戸時代には城下町として栄え、紀南の政治・経済・文化の中心地、交通の要衝として発展してきた。

本事業は、田辺市の中心商店街に位置する田辺市アオイ通り商店街が補助金の受け皿となってコミュニティ施設を開設、運営を特定非営利活動法人市民活動ネットワーク田辺に委託したものである。同NPO法人は、平成14年3月に市民団体を横につなげる連絡組織として結成され、約50団体が加盟している。

アオイ通り商店街および同NPO法人は、田辺市の中心市街地にコミュニティ施設を開設し高齢者を主たる対象とした事業の展開等を通して商店街内に豊かな地域社会を構築するための拠点をすることを目的として共同で本事業に取り組んだ。



田辺市の位置

(田辺市観光協会HPより)

## 2. 事業内容

コミュニティ施設を開設して高齢者を対象とした事業の運営を行ったほか、各NPO団体等の地域活動を促進して地域住民との交流を図った。また、事業実施期間中に新聞広告を出し、事業のPRに努めた。

- ・施設所在地 田辺市下屋敷町 1-78 アオイプラザビル 2階
- ・事業実施期間 平成 15 年 8 月 16 日～平成 16 年 3 月 31 日
- ・施設概要 130 坪（30 坪×1 部屋、20 坪×4 部屋に分け、各種講座の教室等に利用している）
- ・休館日 毎週日曜日
- ・開館時間 9 時～18 時 30 分（講座の内容に応じて延長するなど臨機応変に対応している）
- ・利用料 200 円を上限に基本的に 1 時間あたり 100 円を利用者から徴収している。作品展示については、無料。

### (1) 実施事業

#### ①パソコン教室事業

高齢者を対象としたパソコン教室を開講、初心者コース、初級者コースを設置した。テキストを中心とした講義の部と、自由にパソコンを体験する部とに分け、講座内容をインターネット活用技術の習得に主眼をおいたものとした。

開設日から平成 16 年 3 月末日までで延べ 2,533 名が受講した。

#### ②カルチャー関連事業

各NPO団体の活動内容に沿ったカルチャー教室を開講したほか、地域住民が作成した作品の展示を行った。

利用者数は、延べ 765 名であった。

実施日	団体名	内容	利用者数
H15. 10. 5～10. 16	面サークル	能面、神楽面等の展示	53 名
10. 17～11. 17	スマレの会	押し花展示	111 名
11. 12～12. 19	ゆうさくの会	水墨画展示、教室	167 名
12. 20～12. 21 他	田辺市老人クラブ他	ちぎり絵展示	225 名
12. 16、26 他 5 日	嵯峨御流	生花教室	34 名
H16. 1. 16～ 2. 14	たいちの会	こがし絵展示	175 名

#### ③郷土歴史文化継承活動事業

郷土の歴史や文化を伝えることを目的とした事業で、平成 15 年度は能面、狂言面、伎楽面等の展示を行ったほか、2 月 23 日から 3 月 31 日まで史跡写真展を開催した。

#### ④ガイド活動事業

田辺市内の観光案内を行うボランティア団体がガイド活動を行うとともに、観光案内のための知識を習得する研修を行う事業で、平成 15 年度は 1 月 19 日にガイド活動のための勉強会を実施し、ガイド活動を 8 回実施した。

⑤居場所づくり事業

高齢者が集って健康器具を利用して体力作りを行ったり、知識や経験の披露を行うなど、交流の場を作ることを目的とした事業。平成15年度は施設内に囲碁・将棋コーナーを設け、無料で開放した。

(2) PR

地元紙に新聞広告を6回(10/13、11/23、12/3、12、17、1/14)掲載し、地域住民に施設の存在をアピールした。



新聞掲載広告

【 効 果 】

1. 商店街の認知度

本事業を実施、継続することに伴って広報活動を幅広く実施したことから、商店街の認知度が上がった。

2. 来街者の行動

施設利用者が商店街を通ることから、高齢者を中心に来街者数が増加した。その結果、空き店舗の解消につながった。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

商店街の余裕資金が少ないため、事業資金の不足分を一部の役員が負担している。今後は収益源を確保することが課題である。

2. 人的体制

コミュニティ施設は運営を継続することに意義があると考えているが、運営をボランティアに頼っていることに限界を感じており、スタッフの増強策が課題である。

3. 実施期間・実施時期

補助事業終了後も事業を継続することを前提に事業に取り組むことが必要であり、そのためには、収益を上げられる事業を行っていく必要がある。

#### 4. 事業内容の充実

居場所づくり事業を本事業の中心と位置付けており、今後はお茶、お花、着付け、絵画など女性に好まれる教室を開講して、事業の中身を充実させていきたい。

#### 【 関 連 U R L 】

田辺市アオイ通り協同組合 <http://www.aikis.or.jp/~shouren/aoi.htm>